

# 令和8年度 学校経営計画

四條畷市立忍ヶ丘小学校

校長 上井 大介

## Ⅰ 学校経営方針

- 令和4年1月策定の「四條畷市教育振興基本計画」の基本理念は「みんなの学びが叶うまち ～生涯 学び 夢 挑戦～」とされ、「予測不可能な時代を豊かに生き、未来を拓く人材を育成するには、子どもからおとなまで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要」と示されている。この基本理念の実現に向け、学校では、今を生きる子どもたちの未来を見据え、「学び方を学ばせる」、「学ぶ力や学ぶ意欲、学ぶ楽しさを体感させ、必要な力を身に付けさせる」ことが役割であると考えている。
- これらを背景に、四條畷中学校区の合言葉や昨年度の教職員からの意見を踏まえ、今年度の本校学校教育目標等は以下のとおりとした。

### ★令和8年度【学校教育目標】

豊かな「つながり」を創り、夢に向かって自ら「チャレンジ」する子どもの育成

～「安心・安全」を土台に、みんなの学びが叶う、笑顔あふれる「チーム忍小」～

★学校スローガン 「認め合い、支え合い、助け合い」、「心理的安全性」、「忍小 Brand (ブランド)」

★4つのキーワード ①あいさつ ②やさしい ③チャレンジ ④感謝「ありがとう」

### ★令和8年度忍小の取組の柱

①働き方改革の推進 ②支援教育を意識した取組の推進 ③授業づくり研究(言語能力・ICT・人権教育) ④発信力

○この目標を達成するための具体的な方策として、以下を挙げる。

- ①「あいさつ」を推進する。仲間や先生、地域方々と、学校でも地域でも家庭でも「あいさつ」を通して、つながりを大切にしてほしい。そして、子ども、教職員、保護者、地域など関与者との「つながり」を意識した取組を推進する。
- ②「ありがとう」という感謝の気持ちと周囲を気遣える「やさしい」気持ちを持ってほしい。良好なつながりを築くため、「ありがとう」や気遣い、心遣いを通して、つながりを深め、安心感を持たせたい。
- ③安心感の上に「チャレンジ」する気持ちを持たせたい。「失敗や間違いは恥ずかしいことではなく、成長の大きな一歩であること」を浸透させ、何事にも挑戦する意欲を持たせ自己肯定感醸成につなげたい。
- ④「心理的安全性」を意識した取組を行う。学校が子どもにとっても教職員にとっても安心して学習できる場所、仕事ができる場所であるよう心掛けたい。

## 2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「安心安全」で「心理的安全性」が感じられ、ウェルビーイングを実現する学校</li> <li>○校区内小中学校・家庭・地域と連携・協働する、開かれた学校</li> </ul>
★めざす子ども像	<ul style="list-style-type: none"> <li>①【やってみる】主体的に考え、失敗を恐れず「やってみる」子</li> <li>②【ねばーる】心と体を大切に、あきらめずに「ねばる」子</li> <li>③【つながる】個を認め合い、思いやりをもって「つながる」子</li> </ul>
★めざす教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>①相互信頼と「報連相」を大切に、皆で助け合う教職員集団</li> <li>②仕事の効率化(校務DX等)を図り、ゆとりと笑顔をもって教育に臨む教職員集団</li> <li>③子どものことを一番に考え、チームで学び、スキルアップし、誰にでも温かい教職員集団</li> </ul>

### 3 学校の現状(よさと課題)

#### (1) 子どもたちの実態

本校の子どもたちは、学習面ではまじめに取り組み、課題にも真摯に向き合い、答えを見いだそうとする姿が見られる。また、挑戦してみようとする安心感と場があれば力を発揮することができる。子どもたちが挑戦してみようという気持ちにある安心感や持てる力を発揮できるような環境や場を設定し、成功体験を重ね、できる自分に自信を持ち、自己肯定感をさらに高めることをめざしたい。

また、人に対して思いやりを持った行動ができる子どもの姿が多く見られる。今後はより一層、子どもたちも自ら相手を理解し、折り合いをつけ、共に進んでいくための力を身に付けてほしいと願っている。そのために、子どもが周囲の仲間への関心や意識を持ち、考えがぶつかった際も話し合いをとおして、双方の意見を交流させ、折り合いをつける経験を積ませたい。その結果として、不登校児童数やいじめ事案の減少につなげたい。

#### (2) 子どもたちを取り巻く環境

##### ①教育環境

本校は四條畷市の東側、自然豊かな環境に立ち、創立54年目を迎える。校区内は、閑静な住宅地とJR 忍ヶ丘駅を中心とした商業中心の地域があり、住みよい環境にある。地域の教育に対する関心は比較的高く、学校教育活動に協力的な地域である。

また、子どもたちの多くが進学する四條畷中学校とは敷地が隣接し、小中連携棟を介してつながっている。両校の教職員が行き来することが増え、不必要な段差のない進学を意識した連携が実現しつつある。この環境は強みであり、今後もこの好環境を大いに活用した取組推進につなげたい。

##### ②地域

本校校区の地域においては、これまで続く良き伝統を守りながら新しいつながりを築こうとする取組が、地域の自治会をはじめ関係諸団体によって企画運営され、街づくりを行っている。学校や教育全般に協力的であり、子どもに対する働きかけも積極的である。

##### ③組織(教職員、PTA、保護者)

本校教職員は様々な取組を通して、組織的に動くことや協働して取り組むことを経験することができた。昨年度までの数年間は、授業づくりについて府の指定校の取組を一丸となって取り組み、成果を上げており、昨年度末には「大阪府優秀教職員等表彰(団体の部)」を受賞するなど、同じベクトルで取組を進める素地がある。また、教職員は子どもや保護者に対して、適切な距離感で寄り添い、安心感を持たせながら、指導できる雰囲気がある。昨年度に続き、今年度当初も人事異動により構成が大きく変わったことから、これまでの本校のよき流れを継承しつつ、新しい取組や雰囲気づくりを進めていきたい。

PTAは学校運営や学校行事等に関し、理解を示していただいている。常に役員会等において、情報共有しながら、進めることができる素地がある。

保護者や家庭も子育てについて、熱心に関わっていただいている。今後もPTAや育成会などの保護者の地域コミュニティへの参画意識がより一層高まり、地域でも学校でも子どもを中心に据え、大人がスクラムを組めるようなつながりの構築に努めてまいりたい。

(様式1)

#### 4 今年度の達成目標、具体的な方策

##### 目標設定区分I 『学校経営』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)	
<p>教育課程の編成やカリキュラム・マネジメントの実現等を主眼に置いた学習指導要領の確実な実施に向け、「確かな学び」の定着を図るとともに「生きる力」を育む指導を行う。</p> <p>①「豊かな心の醸成」 子どもが夢を持ち、子どもの安心安全の確保を最優先に置いた学校運営に努める。あいさつなど他者との関わりを通して「つながり」を意識し、「自己肯定感」や「自己有用感」の醸成を図る。</p> <p>②「確かな学力の育成」 校内研究は引き続き国語科を軸とした「言語能力」の育成に努める。また、タブレットPCを活用した授業を推進し、授業改善をめざす。加えて、人権教育推進校の位置づけであることから、全ての学校教育活動の土台となる人権教育にも力を注ぐ。</p> <p>③「健やかな体の育成」 「体力づくりアクションプラン」に基づき、児童の体力向上に資する取組を充実させるとともに、健康に関する指導や食育の推進を図り、命や健康を大切にする意識を育む。</p>	<p>① 学校教育自己診断、児童保護者教職員アンケート(3学期分) A(児)「自分から進んであいさつしている」(R7/80%) B(児)「自分にはよいところがあると思う」(R7/83%) C(児)「人の役に立つ人間になりたいと思う」(R7/95%) D(児)「将来の夢や目標を持っている」(R7/88%) E(児)「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」(R7/87%) F(児)「自分が苦手なことやできないことにもチャレンジするようにながらんでいる」(R7/82%) G(児)「学校は楽しく安心できる」(R7/87%)</p> <p>② 学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート(3学期分) A(児)「授業はわかりやすく楽しい」(R7/83%) B すくすくウォッチ「わくわく問題」の正答率(R7/+3.5P) C 全国学力・学習状況調査の正答率(R7/-0.01P) D(保)(児)(教)「タブレットPC等ICT機器を活用した授業」に関する質問(R7/児90%、保77%、教82%)</p> <p>③ 学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート(3学期分) A(児)「運動することは好きですか」(R7/81%) B 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(R7/男子-6.0P、女子-1.9P) C(児)「給食の時間は楽しみだ」(R7/88%)</p>	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①「豊かな心の醸成」	A 80%以上 B 83%以上 C 85%以上 D 85%以上 E 85%以上 F 82%以上 G 85%以上 ※肯定回答	・全校集会や各行事等取組での講話や評価での意識向上 ・学校だよりやその他の機会を通して、家庭や地域へも方針を伝えるよう発信し、ベクトルを揃える。 ・児童が自ら考え中心となる学校行事や学年、学級の取組等を通して、自己肯定感や自己有用感、人の役に立つ喜びや心地よさを体感させる。 ・道徳やキャリア教育を通して、将来の夢や目標を明確に持てるような取組を推進
②「確かな学力の育成」	A 83%以上	・年2回以上の校内研究授業及び公開授業等の推進

(様式1)

	<p>B 府平均以上 C 全国平均以上 D 児85%以上 保 75%以上 教 90%以上 ※肯定回答</p>	<p>・国語の学習を軸とした「言語能力」の育成について          ⇒子どもたちにつけたい力を教職員で共有を図る。          ⇒言語能力の育成をめざす取組の提案及び協議会          言語能力を他教科等で活用する場の設定          ⇒子どもたちが国語以外の教科学習や総合的な学習の時間などで、誰かに説明する場を設定</p>
③「健やかな体の育成」	<p>A 80%以上 B 全国平均 -3ポイント C 85%以上 ※肯定回答</p>	<p>・体育科授業の充実          ・体育委員会、給食委員会等の活動を通して、運動や食に興味を持つ子どもの育成に資する取組を推進          ・保健室からの児童、保護者等への情報発信により家庭と一体となった健康教育の推進</p>

## 目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
<p>教職員一人ひとりがやりがいと主体性、創造力をもって担当に当たれるような学校組織体制を構築し、質の高い学校運営をめざす。</p> <p>①「良好な学校組織の在り方」 種々会議を効率的に開催するとともに、学校長のビジョンを明確に示し、円滑な学校運営の推進を図る。</p> <p>②「同僚性」 教職員間で「認め合い、支え合い、助け合い」の意識のもと、温かく風通しの良い職場環境をめざす。</p> <p>③「教職員の資質能力の向上」 支援教育の視点を取り入れた授業づくり等を意識した取組を進める。まずは安心できる言葉かけやフォローに努めながら、必要な指導を行う意識を確立させたい。</p>		<p>① 学校教育自己診断等 教職員アンケート(3学期分) A 「学校長の示すビジョンが明確ですか」(R7/最肯定67%) B 「学校運営の状況や課題を全教職の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか」(R7/最肯定45%)</p> <p>② 学校教育自己診断等 教職員アンケート(3学期分) A 「学校は楽しく安心できる場所である」(R7/91%) B 「認め合い、支え合い、助け合う温かい職場環境の雰囲気がありますか」(R7/97%)</p> <p>③ 学校教育自己診断等 教職員アンケート(3学期分) A(教) 「すべての児童生徒が学習に参加し、理解できるよう、学習中の手立てや支援を行いましたか」(R7/94%) B(児) 「先生はあなたの良いところを認めてくれると思いますか」(R7/87%)</p>
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①「良好な学校組織の在り方」	<p>A 90%以上 B 90%以上 ※肯定回答</p>	<p>・教職員向け校長だより「TEAM★忍小」を活用するなどして、学校長からのビジョンを明確でわかりやすく共有          ・学校教育目標に基づいた取組になるよう、取り組む集団の単位で目標や期待する児童の変容を明確にし、また到達度から児</p>

(様式1)

		童の変容を見だし、次の取組に生かす等PDCAを回しながら取組を積み重ねていく。
②「同僚性」	A 90%以上 ※肯定回答 B 90%以上 ※肯定回答	・学校長として、全職員とのコミュニケーションを図るよう努め、些細なことでも「ありがとう」を意識 ・立ち話で交流するなど教職員とのコミュニケーションを図る。 ・職員室は一つの学級との意識のもと、常に教職員の行動には気配り、目配り、心配りを行う。
③「教職員の資質能力の向上」	A 90%以上 ※肯定回答 B 85%以上 ※肯定回答	・学校長のビジョン及び発信のもと、支援教育 Co 等担当者から発信と発達段階に応じた子どもの特性や子ども理解の研修の企画立案実施 ・児童への共感や安心感を与える関わりの共有

**目標設定区分3 『人の管理・育成』(※業務量管理・健康確保措置実施計画の内容についても)**

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
<p>教職員の資質向上とキャリアステージに応じた人材育成に重点を置く。</p> <p>①「教職員の資質能力の向上」 教職員の人権意識の醸成や資質向上を図り、児童や保護者、地域から信頼される組織化された教職員集団をめざす。</p> <p>②「キャリアステージに応じた人材育成」 次期管理職候補、学校教育活動全体の向上を図るミドルリーダーの育成に注力する。</p> <p>③「持続可能な指導体制の整備」 教職員の働き方改革も踏まえ、各取組みや会議等がより効果的かつ効率的に進むよう、組織化された会議の運営を模索する。 また、定時退勤日を校内で月2回程度設け、推進していく。</p>		<p>① 学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート(3学期分) A(保)「子どもにとって学校は安心できる楽しい場所である」(R7/88%) B(保)「担任等はお子さまの気持ちをよく理解している」(R7/87%) C(児)「学校は楽しく安心できる場所である」(R7/87%)</p> <p>② OJT を活用しながら、ミドルリーダー等を要職に位置付け、人材育成を図る。</p> <p>③ 学校教育自己診断等 教職員アンケート(3学期分) A(教)教職員の時間外勤務実態(R7/平均 33H/月※3月) B(教)「授業準備や子どもと向き合える十分な時間が確保できるよう組織として対応できる環境が整っている」(R7/69%) C(教)ストレスチェック「高ストレス者」のスコア(R7/対人5.8環境2.0) D(教)ストレスチェック「働きがい」のスコア(R7/3.1)</p>
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①「教職員の資質能力の向上」	A 85%以上 B 85%以上 C 85%以上 ※肯定回答	・日頃から教職員とコミュニケーションを図り、良好な関係を構築 ・子ども理解や支援教育の視点等、子どもや保護者に寄り添う視点を明確にし、教職員が共通認識できる機会を設定 ・服従管理に係る不祥事防止に向けた研修や発信等実施
②「キャリアステージに応	ミドルリーダー育成	・個別キャリアステージに応じた役割や業務内容について、振り

(様式1)

じた人材育成」		<p>返る場を設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級から学年、学校、そして市全体を俯瞰した取組が意識できる資質の育成に向け、校長発信資料で啓発</li> </ul>
③「持続可能な指導体制の整備」	<p>A 30H/月以内 B 70%以上 C 対人5.5以下 環境2.0以下 D 3.1以上 ※肯定回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議等各会議に組織化された会議の在り方を位置づけ</li> <li>・各会議を効率的かつ効果的に運営できるよう研究</li> <li>・校務支援PCやICT機器の活用による業務時間の短縮</li> </ul>

#### 目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
<p>小中連携・一貫教育を基軸とし、地域コミュニティづくりの推進を図る。</p> <p>①「家庭・地域・学校の連携、協働の推進」</p> <p>四條畷中学校区学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)の深化と充実を図り、本会が主体となった取組を展開する。</p> <p>また、PTA活動や地域諸団体と連携した取組を通して、家庭教育支援の充実に努める。</p>		<p>① 四條畷中学校及び四條畷小学校と連携し、学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)について、学校だよりや各会議において、保護者や地域への発信を行い、学校運営協議会の円滑な運営を図る。</p> <p>A 学校等から発信される通信等で、保護者や地域に発信</p> <p>B 学校自己診断等 児童保護者教職員アンケート(3学期分) (保)(児)(教)「中学校区の取組やPTA行事、地域行事への参画」に関する質問(R7/児76%、保82%、教97%)</p>
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①「家庭・地域・学校の連携、協働の推進」	<p>A 学校だよりやHP、タイムライン等で紹介3回以上</p> <p>B 児75%以上 保 80%以上 教 90%以上 ※肯定回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより等を通して、保護者や地域への発信を行う。</li> <li>・外国語等中心に中学校教員による授業を実施する。</li> <li>・学校、PTA、地域行事について、小中連携を意識した取組みを行う。</li> <li>・家庭教育の充実に向け、周知啓発を行う。</li> <li>・SCやSSW、教育支援センター、フリールームなわて、市役所関係部局及び外部機関等の協力を得た保護者啓発事業の実施</li> </ul>